

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (甲信越)	◎	スナック（経営者）	来客数の動き	・コロナ禍が終わって、当たり前の日常が戻ってきたことを実感している。来客数、売上とも新型コロナウイルス感染症発生前と比べたら、甚だ不服ではあるが、確実に回復しつつあるため、とても有り難い。
	◎	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・前月からの好調が変わらず続いており、問合せや予約が日々増加している。個人の少人数利用が顕著に減少傾向にあるものの、法人や団体利用が格段に増加傾向で、全体的には来客数が非常に増加し、好調である。
	◎	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・一般宴会、懇親会付きの宴会について、3か月前と比べて、大きく変わり、出席者数が増えている。また、6月に入ってから、当月に30～40人規模の宴会をしようという企業からの予約が合計で10件以上入っている。金額ベースにすると1000万円ほど、今月に入って増加している。
	◎	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類移行となっても、葬儀内容は以前のように戻っていない。少人数で安くという流れは、むしろ主流になっている。
	○	商店街（代表者）	販売量の動き	・今年の3～4月にかけて新入生向けの販売をしたが、追加注文が結構多い。やはり今年はクラブ活動が通常どおり始まったので、今までよりも商材が動いて、大変うれしい。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の5類移行と全国旅行支援の影響で、本来なら梅雨によって人出が止まる時期だが、旅行者を中心ににぎわいを感じている。
	○	スーパー（経営者）	それ以外	・前年比で、売上は9%減少、乗客数が29%減少と、売上、乗客数共に減ってはいるが、弁当等の総売上は増えている。6月後半の週末は、前年に引き続き、県立高校の文化祭で販売するための弁当の注文を受注した。前年は3日間で300食だったが、今年は550食である。月末も球技大会から多くの注文を受けている。7月には地区の夏祭りがあり、毎週何かとイベントあるので、大変有り難い。
	○	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・観光客の増加、特に外国人客が多く、やや良くなっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・前年比103%で推移している。
	○	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新車の供給制約緩和に伴い、販売台数は順調に伸びている。
	○	自動車部品販売店（従業員）	単価の動き	・オイルやバッテリーを中心に売上が伸びており、客単価が上がっている。
	○	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・全国旅行支援の枠が残り僅かであったため、全国旅行支援による集客は少なかった。新型コロナウイルス感染症発生前は、6月に企業の会や老人会、同窓会、組合等の団体客がそれなりにあったが、いまだに少ない状況で、回復途上といったところである。
	○	旅行代理店（副支店長）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の5類移行後、旅行需要が増加してきている。個人需要は回復傾向にあり、回復が遅れていた団体についても旅行相談や受注が増加している。
	○	タクシー運転手	販売量の動き	・このところ、前年比105～110%で推移している。新型コロナウイルス感染症発生前の令和元年と比べて82%まで回復している。
	○	観光名所（職員）	来客数の動き	・今月もインバウンドを中心に来客は多い。また、国内観光客の伸びも堅調である。
	○	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症の5類移行後、今までなかなか入らなかつた企業や団体の予約が入り始めている。
□	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・物価が上昇している上に、電気代も下がらないため、家電業界では販売に影響が出ており、厳しい状況が続いている。省エネの商材を販売しようという施策をとっても、高額な商材のためなかなか購入までは結び付かない。	

	□	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・客の来店状況は、ほぼ前年並みで推移しており、売上動向も同様である。若干のインバウンド効果はあるものの、衣料品や食品は伸び悩んでいる。
	□	スーパー（経営者）	来客数の動き	・来客数は堅調で、単価上昇分で買上点数の減少分をカバーしている。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・来客数は前年をやや下回っているものの、客単価が伸びている分、若干上向いている。相対的に見れば前年と変わらない。
	□	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・今のところ3か月前とそこまで差はない。6月後半にかけて少しずつ上がってきてはいるが、月前半は梅雨入りで売上も鈍っていたため、その穴を埋めている感じである。
	□	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症の5類移行後、人々の動きは活発化しており、食や旅行には関心が高くお金を掛けているようだが、服飾関係には余り積極的ではないように見受けられる。
	□	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・車検、一般整備は順調に入庫している。車両販売は、低価格の中古車を希望する客と高額の新車を注文する客があり、最近の物価高のなか、客の格差の広がりがある。
	□	その他専門店〔酒〕（店長）	お客様の様子	・6月の前半から中盤は非常に良かったが、後半は非常に厳しくなっている。相殺して変わらないような気がしているものの、6月は良くなるはずが、このところ失速気味である。新型コロナウイルス感染症の第9波が来ているということと、非常に物価高が効いてきている感じはする。これからかなり厳しいのではないかと。
	□	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・物価の上昇により、余暇に使う金額は抑えられる傾向にある。
	□	スナック（経営者）	来客数の動き	・追加することはないが、景気の見通しは悪い。
	□	通信会社（社員）	販売量の動き	・CMやSNSの発信で、ある程度は認知度の拡大につながっていると思う。特に、SNSはこれまでの客層とは違った年代へアプローチできている。
	□	遊園地（職員）	お客様の様子	・新型コロナウイルス感染症の5類移行や旅行に対する機運が高い状況が続いており、来客数が増加している。
	□	ゴルフ場（経営者）	来客数の動き	・客の予約状況に変化はない。
	□	設計事務所（職員）	来客数の動き	・依頼数は多く、1人で何件も物件を受け持つ状況は変わらない。
	□	住宅販売会社（経営者）	販売量の動き	・客の問合せ等は以前に戻りつつあるが、成約に結び付かない。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・コロナ禍は収まったが、客足は戻らない。中心街の街並みには日中いつも人通りがない。この環境で商売を続けていくのは大変である。
	▲	コンビニ（店長）	来客数の動き	・新型コロナウイルス感染症が収まってきて、大分良くなったと思っていたが、梅雨の時期に入り、今年の当地方は梅雨らしい天候になったため、販売量の動きが悪く、例年同月と比べて若干良くない。
	▲	家電量販店（店長）	来客数の動き	・前年との気温差もあり、夏物商材が苦戦している。
	▲	ゴルフ場（副支配人）	お客様の様子	・来場者が減少している。ただし、プレー代の値上げや周辺コースのイベント、ゴルフ以外への人の動きの活発化等も原因として考えられ、一概に景気によるものとは言い切れない。
	×	*	*	*
企業動向関連	◎	—	—	—
(甲信越)	○	食料品製造業（営業統括）	競争相手の様子	・インバウンド効果で、業務筋やホテル向けの出荷は上向きに推移している。工場来場者向けの売上はやや苦戦している。
	○	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新型コロナウイルス感染症発生前の受注状況に戻りつつある。ただし、製造工程における人手不足が心配である。

	○	その他製造業 [宝石・貴金属] (経営者)	受注量や販売量の動き	・コロナ禍で全く外出していなかった人々が戻ってきている。催事への来場者数は少ないものの、売上額は増えている。その大きな要因は、金地金価格の高騰や円安進行によって商材価格が大幅に上がっていることである。製品によっては新型コロナウイルス感染症発生前の倍以上の価格になっている物もあり、売上額が上がっていても、収益率は低下しているのが現実である。
	○	金融業 (経営企画担当)	取引先の様子	・物価上昇等の影響はあるものの、人流の回復が顕著になっている。個人消費が回復傾向にある。
	□	窯業・土石製品製造業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・商材の受注状況は依然として低迷している。
	□	建設業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・原材料関係の値上がりは続いているが、工事価格に少しずつ転嫁している。
	□	金融業 (調査担当)	取引先の様子	・製造業では電子部品等で在庫調整が続いており、弱い動きがみられる。一方、非製造業は観光関連需要が底堅いほか、大型店売上や乗用車販売も前年を上回る状況にある。
	□	新聞販売店 [広告] (総務担当)	受注量や販売量の動き	・旅行業は前年比で順調に伸ばしているものの、折込広告には用紙代や燃料費高騰により出稿枚数が落ち込んでいる。
	▲	電気機械器具製造業 (経営者)	取引先の様子	・周囲でも活気のある話を余り聞かない。景気の良くないところへエネルギーコスト上昇が重くのし掛かっている。
	×	食料品製造業 (製造担当)	それ以外	・経費が増えて、利益が出る状態ではない。特に、電気代が劇的に上がっていて、深夜電力と昼間電力の価格差がなくなり、節約や製造時間の変更等の意味もなくなってしまっている。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	求人情報製作会社 (総務担当)	求人数の動き	・景気は回復しているのに、求人数は思ったほど増えていない。人手が足りないはずなのに、すぐにお金を出して求人募集をする感じにならない理由が、よく分からない。
	○	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・新規求人申込件数は、安定的に前年比で増加傾向を示している。事業主の人手不足感が顕著であることなどが、やや良くなっている理由である。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・主に製造業では、原材料不足、エネルギー価格や諸物価の上昇の影響を受けて、求人を手控える状況が続いている。一方で、好調な業界である非製造業や人手不足な介護職等の派遣需要の高まり、新型コロナウイルス感染症の5類移行で対応が緩和ムードにシフトするなか、サービス業、卸、小売業で求人数が増えている。
	□	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・業種間での差はあるものの、全体的には変わらない。
	□	民間職業紹介機関 (経営者)	求人数の動き	・求人数は若干減りつつあるが、現場作業員への影響は少ない。
	▲	人材派遣会社 (営業担当)	求職者数の動き	・求職者からの問合せが減っているなか、精神的に疲れている人が今までより多くなっている。また、就職しても試用期間どころか1週間もたたないうちに退職して相談に来るケースも多くなっている。条件がうまく整っていないのだろうと感じる。
	×	—	—	—